

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2024年7月4日時点)

➤ 露軍が各正面で攻勢を強め、ウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を継続する一方、ウクライナ軍は火砲や砲弾、防空ミサイルなどの不足に直面する中で防御戦闘を継続

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT23年8月18日)

: 死者約18万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

: 死傷者50万人以上 (英国防省24年5月31日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT23年8月18日)

: 死者3.1万人 (ゼレンスキー大統領24年2月25日)

「ウ」市民: 死者10,000人以上、負傷者1万8,500人以上 (UN23年12月4日)

- 露国防省は、6月28日にドネツク州ロズドリウカ村、6月29日にドネツク州シューミ村、6月30日にドネツク州スピルネ村、ノヴォアレクサンドリウカ村、7月1日にハルキウ州ステボヴァ・ノヴォセリウカ村、ドネツク州ノヴォボクロウスケ村、7月3日にドネツク州チャシフ・ヤールの一地区を解放したと発表
- 「ウ」情報総局は、露軍がドネツク州における攻勢のペースを加速し続けていると発表(7月3日)」
- ゼレンスキー大統領は、両国軍が膠着状態に陥ったという考えを否定した上で、「ウ」軍の状況は数か月前と比較して改善しており、新たな攻勢については、部隊の武装の問題であると発言(7月3日)

- チェコ国防相は、第1弾として「ウ」に引渡した砲弾は最大5万発であると明言(6月27日)
- 「ウ」メディアは、「ウ」情報総局関係者によれば、露・「ウ」間の前線における砲撃数の差が7:1から3:1まで縮小したと報道(6月27日)
- 露連邦捜査委員長は、露国籍を取得した移民の内、義務となっている軍への登録を行っていない3万人以上を特定し、この内の約1万人を戦域に投入していると発言(6月27日)
- ゼレンスキー大統領は、露が、この1週間だけで800発以上の誘導滑空爆弾を使用したとした上で、長射程攻撃能力と近代的な防空システムが必要である旨発言(6月30日)
- 米メディアは、露内部文書から、露がベルゴロド等国内にも滑空誘導爆弾を投下と報道(7月1日)
- 蘭国防相の書簡によれば、同国外国貿易・開発協力相が、F-16戦闘機×24機及びエンジン×7機の対「ウ」輸出許可証を発行したため、まもなく最初の戦闘機が供与される予定(7月2日)
- 米メディアによれば、「ウ」司法次官は、既に3千人以上が仮釈放され動員兵となっており、さらに約2.7万人が対象となる可能性があると発言(7月2日)



- 「ウ」空軍報道官によれば、露がキーウに発射した「イスカンデル-K」×2発を撃墜も、破片が落下し被害が発生。キーウ市長は6人が負傷と発表(6月30日)
- 露国防省は、「イスカンデルM」弾道ミサイルによる攻撃の結果、ポルタヴァ州ミルホロド空軍基地に駐機していたSu-27×5機を破壊し、2機を損傷させたと発表。他方、「ウ」空軍司令官は、クリミア半島の弾薬庫に壊滅的な攻撃を与えたとした上で、「破壊された」航空機が首尾よく任務の遂行を継続していると発表(7月1日、2日)
- ゼレンスキー大統領等は、ドニプロ市の学校や病院等に対する露軍の攻撃により、少なくとも5人が死亡、53人が負傷と発表。

- 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ウクライナ軍が奪還した地域

国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等